

# 新年のごあいさつ

学校長 狩野賢司

新年、明けましておめでとうございます。

保護者の皆様におかれましてはお健やかに新たな年を迎えられ、お志も新たに、すでにご始動されていらっしゃることに拝察いたします。本年もどうぞよろしく願いいたします。

本日の始業式では、七草がゆにちなんで春の七草について、子どもたちに話しました。今では、おせち料理などお正月のごちそうを食べて疲れてしまった胃腸を休めるというような意味で、七草がゆをいただくことが多いかもしれませんが、昔の冬は青物が少なかったため、貴重な冬場の栄養源として、野草も混じった七草がゆを食べるのが本来の意味だったのではないかと思います。

セリ、ナズナ、ゴギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）、これらが春の七草です。カブやダイコンはおなじみの野菜ですし、セリも今では多くが栽培されてこの季節になると野菜と並べられて販売されているのを見かけます。ナズナやハコベは都会の道端でもよく目にする植物ですし、全体が白く短い毛のようなもので覆われたハハコグサも気をつけてみるとあちこちに生えています。このように見つけやすさ、入手のしやすさという点でも、春の七草は優れたものだと思います。

この中で注意が必要なのはホトケノザです。春の七草に読まれたホトケノザは、今ではタビラコの名で呼ばれ、タンポポを華奢(きゃしゃ)にしたような植物のことで、春先から黄色い花を咲かせます。ちょっと湿ったところの好きな植物で、田やあぜ道でよく見ることができます。ややこしいのは、正式な和名でホトケノザと呼ばれるもう1つの植物があることです。こちらのホトケノザも、ナズナやハコベと並んで道端に多い植物で、春から秋にかけて細長い紫色のきれいな花を咲かせます。でも、こちらのホトケノザは食用ではないので、間違えて七草がゆに混ぜないようにしなければなりません。今では衛生の面からも、実際に七草を摘んで七草がゆをつくるということは少なくなってしまったかもしれませんが、身近なこういう植物で七草がゆをつくったんだよと、大人が子どもに示すことでこのような風習が受け継がれていけばいいなと思います。

さて、三学期はお別れ音楽会、そして卒業式が行われます。6年生は中学校という新しいステップに向けて、5年生は6年生のリーダーシップを受け継いで、そして1年生から4年生も4月に入学する新入生を迎える立場になることを自覚して、充実した三学期を過ごしてほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には三学期の学校運営に関しましても、これまでと変わらずどうぞよろしくご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。また、前号にも申し上げたとおり、1月24日には本校主催の全国公開研究発表会を開催いたしますが、その際の運営等に関してもお力添えいただけますこと、重ねてお願い申し上げます。

今年一年が皆様にとって至福の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。